

## 耐寒性が強くクワシロカイガラムシ抵抗性のある 中生緑茶用品種「かなえまる」

日本の約70%の茶園で栽培される中生品種の「やぶきた」は病害虫の発生が多く、栽培上の問題となっています。農研機構果樹茶業研究部門では耐寒性が強く、クワシロカイガラムシ抵抗性を有し、中山間を含む主要な茶産地で栽培が可能な中生品種「かなえまる」を育成しました。「かなえまる」は“みどりの食料システム戦略”技術カタログに掲載されています。



「かなえまる」の一番茶園相

### ☆ 技術の概要

1. 「かなえまる」一番茶の萌芽期と摘採日は「やぶきた」と同等の中生で、樹勢は“やや強”で生育は旺盛であり、樹姿はやや開帳型”です。
2. 「かなえまる」の生葉収量と製茶品質は全ての茶期で「やぶきた」と「さえみどり」より優れます。また、被覆栽培でかぶせ茶と玉露を栽培・加工した場合、収量・品質は「やぶきた」より優れる被覆適性が高い品種です。
3. 「かなえまる」は耐寒性調査の結果、寒害の赤枯れや青枯れの発生頻度が「やぶきた」より少なく、裂傷型凍害抵抗性は“やや強”であり、「やぶきた」より耐寒性に優れます。
4. 「かなえまる」の病害虫抵抗性は炭疽病ともち病に“やや強”、輪斑病とクワシロカイガラムシに“強”で通常は防除不要です。ただし、赤焼病には“弱”なので防除が必要です。

表1 「かなえまる」の栽培・加工特性

品種名	早晚性	萌芽期 (月/日)	摘採日 (月/日)	生葉収量(kg/10a)		製茶品質 (50点満点)		耐寒性調査結果				病害虫抵抗性		
				一番茶	二番茶	一番茶	二番茶	寒害発生程度 <sup>1)</sup>		炭疽病	もち病	輪斑病	クワシロ カイガラ ムシ	
								赤枯れ	青枯れ					凍害 抵抗性
かなえまる	中生	4/2	4/29	522	529	40.3	37.0	1.9	1.6	やや強	やや強	やや強	強	強
やぶきた	中生	4/1	4/30	331	319	37.9	32.7	2.6	2.8	中	弱	弱	弱	弱
さえみどり	早生	3/28	4/28	332	361	39.6	35.0	2.7	3.0	中	やや強	やや強	弱	弱

茶系統適応性検定試験参画試験研究機関データより抜粋。

1) 発生程度：1(少)～5(多)。

### ☆ 活用面での留意点

1. 「かなえまる」は定植1年目の生育は緩慢ですが、2年目以降の生育は旺盛です。
2. 「かなえまる」は碾茶の栽培・加工試験は未実施のため、碾茶適性は不明です。
3. 詳細は農研機構問合わせフォーム

(<https://www.naro.affrc.go.jp/inquiry/index.html>) にお問い合わせください。

(農研機構果樹茶業研究部門 茶業研究領域 大井彩子)